



決め手は、青森県産。



特産果樹生産情報第1号
(4月2日～4月28日)

令和4年4月1日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

生育状況に応じた適期作業を！
霜害防止対策と病虫害防除を万全に！！

I 要約

- 気温が高く推移しています。樹種ごとに生育状況を確認しながら、適期に管理作業を行う。特に休眠期や発芽前の防除は、適期を逃さないよう実施する。
- 発芽後、生育が進むにつれて霜害を受ける危険が高くなるので、気象情報に注意し、霜害防止対策を必ず実施する。
- 剪定や枝片付けが遅れている園地では、病虫害防除などの春作業の支障とならないように、できるだけ早めに終える。

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

うめ‘豊後’の発芽日は、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より2日早い3月17日であった。

○ぶどうの生育ステージ

（4月1日現在）

品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日	
スチューベン	五戸	本年							
		平年	4.30	5.13	6.22	6.25	7.2		
		前年	4.18	5.8	6.14	6.15	6.22		
	黒石	本年							
		平年	4.28	5.9	6.17	6.20	6.29		
		前年	4.26	5.8	6.12	6.14	6.30		
キャンベル・アーリー （露地）	五戸	本年							
		前年	4.18	5.9	6.12	6.13	6.19		
キャンベル・アーリー （無加温ハウス）	五戸	本年						3.23	
		平年	4.14	4.28	5.27	5.30	6.4	3.23	
		前年	4.5	4.26	5.21	5.25	5.28	3.22	
	三戸	本年							3.23
		平年	4.4	4.15	5.14	5.16	5.20	3.16	
		前年	4.2	4.16	5.12	5.14	5.19	3.19	
シャインマスカット （簡易雨よけ）	五戸	本年							
		平年	5.1	5.14	6.28	7.1	7.4		
		前年	4.24	5.10	6.22	6.25	6.27		
シャインマスカット （露地）	黒石	本年							
		平年	5.2	5.13	6.24	6.27	7.1		
		前年	4.30	5.10	6.21	6.25	6.28		

注1) 場所の五戸はりんご研究所県南果樹部、黒石はりんご研究所、三戸は三戸町梅内（県生育観測は）、以下同様

2) 平年値は2002～2021年（20年間）の平均。ただし、キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の五戸は2005～2021年（17年間）の平均、シャインマスカットの五戸の発芽日は2013～2021年（9年間）、展葉日は2012～2021年（10年間）、開花日、満開日、落花日は2011～2021年（11年間）、黒石は2009～2021年（13年間）の平均

○おうとう、もも及びうめの生育ステージ

(4月1日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
おうとう	佐藤錦	五戸	本年					
			平年	4.23	5.3	5.1	5.4	5.15
			前年	4.15	5.1	4.25	4.28	5.12
	黒石	五戸	本年					
			平年	4.22	5.5	5.1	5.4	5.15
			前年	4.11	5.2	4.26	4.30	5.12
ジュノハート	五戸	本年						
		平年	4.24	5.4	5.3	5.5	5.15	
		前年	4.18	5.2	4.28	5.1	5.12	
もも	あかつき	五戸	本年					
			平年	4.15	5.6	5.2	5.5	5.13
			前年	4.1	4.28	4.24	4.25	5.7
	川中島白桃	五戸	本年					
			平年	4.16	5.8	5.5	5.7	5.16
			前年	4.3	4.28	4.25	4.27	5.8
黒石	五戸	本年						
		平年	4.20	5.10	5.4	5.7	5.15	
		前年	4.5	5.7	4.30	5.4	5.13	
うめ	豊後	五戸	本年	3.17				
			平年	3.19	4.27	4.22	4.24	4.30
			前年	3.11	4.20	4.12	4.14	4.23

注) 平年値は2002～2021年(20年間)の平均。ただし、ジュノハートの発芽日、開花日、満開日、落花日は2009～2021年(13年間)、展葉日は2012～2021年(10年間)の平均、川中島白桃の五戸は2004～2021年(18年間)の平均、黒石は2003～2021年(19年間)の平均

○なしの生育ステージ

(4月1日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
西洋なし	ゼネラル・レクラーク	五戸	本年					
			平年	4.11	4.29	5.5	5.6	5.12
	前年	3.30	4.23	4.27	4.29	5.6		
	ラ・フランス	五戸	本年					
平年			4.10	4.29	5.5	5.6	5.12	
前年	3.29	4.23	4.27	4.29	5.6			
日本なし	幸水	五戸	本年					
			平年	4.11	5.2	5.5	5.7	5.16
前年	3.30	4.27	4.28	4.29	5.9			

注) 平年値は2002～2021年(20年間)の平均

2 各樹種共通作業

枝片付けや霜害防止対策の準備などの春作業を急ぐとともに、病虫害防除は園地の生育ステージをきちんと確認し、適期を逃さないようにする。

(1) 剪定、枝片付け

剪定や枝片付けが遅れている園地では作業を急ぎ、病虫害防除などの春作業の支障とならないように、できるだけ早めに作業を終える。

(2) 野ネズミ被害樹の処置

地際付近の樹皮が完全に一周して食害された場合は盛り土を行い、カルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄せ接ぎを行う。

地際部以外では、食害の程度に応じて塗布剤を塗布するか、植え替える。

3 霜害防止対策

花芽の耐凍性は発芽とともに低下し、霜害を受ける危険性が高くなる。気象情報に十分注意し、次の対策を行う。

(1) 防霜ファンによる防止

温度検知器は、地上1.5mに設置し、防霜ファンの始動温度を2℃に設定する。

寒気を伴ったときや著しく低温になったときは、防止効果が小さいので、燃焼法を併用する。

(2) 燃焼法による防止

燃焼法を行う場合は、所定の届出書を消防署に提出する。

燃焼資材はあらかじめ園地内に配置しておき、気温が0℃になったら点火する。

① 霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）

霜カット2kgを袋等に入れ、10a当たり40～60個配置する。

② A重油

4ℓ缶を利用する場合、10a当たり30缶以上を配置する。

なお、灯油等の保管については、保管量が200ℓ以上～1,000ℓ未満の場合は「少量危険物貯蔵届出書」の提出、1,000ℓ以上の場合は「危険物取扱者」の資格が必要である。

(3) ハウスぶどうでは、ハウス内を石油ストーブなどの暖房器具を用いて加温する。

3 作業の重点

(1) ぶどう

ア 園地の点検

雪などで傾いた支柱や破損した腕木を取り替え、架線の緩んでいるものは、補強して主枝を結束し直す。また、病害の発生源となる架線上の巻きひげや成り跡、粗皮を除去し処分する。

イ 施肥

4月上旬に標準施肥量の10%程度を追肥として施用する。年間標準施肥量は、成木10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸10kg、カリ10kgである。

ウ 摘芽、摘梢

樹勢調節による良品生産のため、樹の生育状況に応じて数回に分けて行い、良好な花穂の付いた新梢を必要量確保する。なお、霜の恐れがあるところでは霜の心配がなくなってから行う。

最終的な新梢数は、主枝1m当たりキャンベル・アーリーとスチューベンでは8～10本、シャインマスカットでは空枝（着房させない生育が弱～中の枝）を2本程度含めて12本程度とする。

エ 無加温ハウスの管理

日中の温度は25℃を目標とし、30℃以上にならないように換気する。

発芽から展葉期までは、夜間の温度が0℃以下になると凍霜害を受ける恐れがあるので、暖房器具を準備しておく。

オ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
休眠期 (4月中旬)	ベフラン液剤 250倍 又はデランフロアブル 200倍 又はパ°ス°ト顆粒水和剤 250倍	ガットキラー乳剤 100倍	200ℓ

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
休眠期 (4月中旬)	デランフロアブル 200倍 又はパ°ス°ト顆粒水和剤 250倍 又はベンレート水和剤 200倍	ガットキラー乳剤 100倍	200ℓ

(2) おうとう

ア 結実確保

(ア) 授粉樹の点検

授粉樹の割合は3割以上とし2品種以上栽植する。授粉樹は対象とする品種と交雑和合性があり、開花期がほぼ同時期で経済性のある品種を選ぶ。

例年、結実の悪い園地では、授粉樹や混植割合を点検する。

(イ) 人手授粉

結実を確保するために、毛ばたきや花粉交配機（ラブタッチ）などによる授粉を積極的に行う。天候が不順の場合はマメコバチに頼らず、毛ばたき授粉をこまめに行う。授粉樹が少ない園地では花粉を採取し、花粉交配機などで授粉する。

イ 病虫害防除

コスカシバ対策として、「開花前」（4月中旬）までにフェニックスフロアブルを樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。

灰星病（花腐れ）防止のため、「満開5日後頃」の薬剤散布は遅れないように適期に行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
発芽前 (4月上旬)	—	マシン油乳剤 50倍	350ℓ
開花前 (4月中旬)	—	フェニックスフロアブル 500倍	200ℓ
開花直前	オーソサイド水和剤 800倍	—	450ℓ
満開5日後頃	パースト [®] 顆粒水和剤 1,500倍 又はワリ-ワ [®] フロアブル 2,000倍 又はラリー水和剤 2,000倍 又はオーシャイン水和剤 3,000倍	—	500ℓ

注) マシン油乳剤：ハーベストオイル、トモノールS

(3) も も

ア 摘 蕾

摘蕾は、原則として花粉のある品種について実施する。

摘蕾の適期は、開花4～5日前（蕾がふくらみ、ピンク色の花弁が見え始める頃）で、この時期は蕾が落ちやすく作業がしやすい。

摘蕾の程度は、全体の70%ぐらいの蕾（花芽）を落とす。長果枝（30cm以上）、中果枝（10～30cm）では中央から基部の蕾（花芽）を、短果枝（10cm以下）では先端以外の蕾（花芽）を落とす。ただし、主枝、亜主枝の先端部はすべて落とす。

なお、霜の常襲地帯では摘蕾を控えるか、結実させない位置の蕾を落とすだけとする。また、樹勢の強い樹では生理的落果等の恐れがあるので摘蕾をしないか少量にとどめる。一方、樹勢の弱い樹では強めに実施する。



開花4～5日前の蕾

イ 結実確保

花粉が少ない川中島白桃などの品種では、毛ばたきや梵天、花粉交配機による人手授粉を必ず行い、結実を確保する。授粉作業は晴天無風の午前中が最適である。

ウ 病虫害防除

「発芽前」（3月下旬～4月上旬）は縮葉病防除、「開花直前」はせん孔細菌病防除の重要な時期となるため、散布むらのないようにていねいに行う。

コスカシバ対策として、「開花前（4月中旬）」までにフェニックスフロアブルを樹幹部に、薬液が十分かかるように手散布する。

（ア）薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
発芽前 （3月下～ 4月上）	キノンドー水和剤40 500倍 又はチウラム剤 500倍 又は石灰硫黄合剤 7倍	—	300ℓ
開花前 （4月中旬）	—	フェニックスフロアブル 500倍	200ℓ
開花直前	I C ボルドー412 30倍	—	300ℓ

注）チウラム剤（チオノックフロアブル、トレノックフロアブル）

（イ）せん孔細菌病対策

風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

春型枝病斑の切除に当たっては、結果枝（1年枝）にできる紫褐色の病斑のほか、開花や展葉等の生育の遅れがみられる枝、芽や枝先が枯死している枝、亀

裂のある枝も病斑が発生する又は発生しているので、見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。



春型枝病斑（紫褐色の病斑）

(4) なし

ア 施肥

4月中旬までに、基肥として標準施肥量の80%程度を施用する。

年間標準施肥量は、成木10 a 当たり成分量で窒素15kg、リン酸6 kg、カリ12kgである。

イ 芽たたき（摘蕾）

芽たたきを実施することにより早期適正着果と摘果作業時間の低減などにつながる。

(ア) 芽たたきの適期

花蕾が離れておらず、展葉していない頃（4月下旬）が適期である。適期の期間は3日程度である。



なしの開花順序

(イ) 芽たたきの方法

なしは2～4番花の果実が、果形が揃い、品質も良い。このため、1～4番花を残すように、指で花蕾に対して垂直に押しつぶすか、花蕾を軽くたたいて花梗を折る。



作業適期（芽たたき前）



芽たたきの仕方



芽たたき後

ウ 結実確保

必ず交雑和合性の高い他の品種を授粉樹として混植し、人手授粉やマメコバチなどによる授粉を行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布 (西洋なし)

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
発芽期 (4月下旬)	—	ダイズノ水和剤34 1,000倍	300ℓ

(イ) 黒斑病対策 (ゼネラル・レクラーク)

発生が見られる場合は、「発芽7日後頃」にキノンドーフロアブル1,000倍を特別散布する。

(5) うめ・あんず

ア 病虫害防除

黒星病等防止のため、「落花直後」の薬剤散布は遅れないように適期に行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花直後	オーシャン水和剤 3,000倍	モスロン顆粒水溶剤 4,000倍	300ℓ

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は、令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」、または「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

また、令和2年12月からの大雪で、他県では雨よけハウスの倒壊が多く見られました。農業用施設の損壊に備え「園芸施設共済」への加入も併せて御検討ください。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入を御検討ください。

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第2号は4月28日（木）発表の予定です。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナ感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通